



同時開催のソーラーボート大会。今年は天候に恵まれなかったが、周回レースやスラロームで熱戦が繰り広げられた。市内のチームでは、一般の部に出場した共和建設が準優勝に輝いた



今年で3回目を迎えた柳川スケールボート・フェスティバル。操縦体験や夜間航行などが行われ、参加者たちはライトや汽笛など細部までこだわった自慢のボートを披露した



# 水に親しんだ2日間

第5回水郷柳川夏の水まつり「スイ！水！すい！」



水上競技では、恒例の掘割エイト競漕とカヌー周回レース、昨年から始まり好評の水上ゴザばしりに加え、今年はんぎり競漕が復活。はんぎり競漕はスタート直後に転覆する人が続出し、会場を沸かせた



会場の中央に設けられた10m四方の巨大プールには、ビニール製の円筒状の水上チューブが浮かべられ、中に入った子どもたちは転がるたびに大喜び。また、直径2mのビニール製の風船に入って水上を散歩する水上風船や、水上をはねて進むアクアスキッパーにも、子どもたちが行列を作りました。

第3回柳川スケールボート・フェスティバルは、夜間航行が行われ、ライトや電光掲示板など、細部まで再現されたボートが夜の水辺を行き交いました。

17回目を迎えたソーラーボート大会は、今年からコース沿いにカメラを2か所設置。インターネットを使ってライブ動画を配信しました。

はんぎり競漕は、スタート直後に転覆する人が続出。会場には多くの笑顔であふれました。

今年の「スイ！水！すい！」は、7月14日に発生した水害のため延期され、初めての9月開催となりました。台風の接近で開催も心配されましたが、幸い天候の大きな崩れもなく、2日間にわたって会場は競技やアトラクションでにぎわいました。

去年から始まった水上ゴザばしりには、子どもから大人まで45人が参加。不安定なゴザの上を走る参加者に会場から大きな歓声が起こりました。

9月15日と16日、からたち文人の足湯公園で開催された水郷柳川夏の水まつり「スイ！水！すい！」。水辺は、水とふれあい、水がもたらす楽しさを、存分に味わう人たちの笑顔であふれました。



会場では、蒲池中学校の生徒が九州北部豪雨災害と東日本大震災への募金を呼びかけた。また、掘割の生態系研究のパネル展示も行われた



からたち文人の足湯公園や周辺の水辺では、うなぎのつかみどりや水上風船、アクアスキッパーなどをする子どもたちの歓声が響き渡った。10m四方の巨大プールでは、水上チューブが順番待ちになるほど大人気。中に入った子どもたちは、楽しそうに転がまわっていた